

# 明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園「明日にむかって」編集委員会  
発行日/2001年3月24日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

35号

私の国は兵隊のない国、兵器のない国、子どもたちが戦闘機、戦車、艦船を見たことのない国なのです。私の国は教育者、先生が大勢いる国です。ですから平和の国であるのです。兵舎は閉じ、子どもたちは肩に銃をかつくのではなく、脇に本を抱えて歩いていきます。暴力は拒否します。相手を打ち負かすのではなく、納得させられるまで話し合います。千の兵士、軍隊よりコストリカを強くする力は自由とその原理、私たちの文明の偉大な理想の力なのです。そして最後に、「二度とヒロシマがあってはならない」「二度とベトナムがあってはならない」と結んだアリアス大統領（コストリカ）の一九八七年ノーベル平和賞受賞演説です。コストリカのモットーはコミュニケーションです。交友、家庭でも、教育でも、外交でも、もちろん平和のためにもコミュニケーションが最も価値あるものと国民的合意がなされていること（緒方靖夫『視点を変えることこんな日本が見える』より）日本の総理大臣は原潜事故に若者が遭遇していることを知りながら、その時もゴルフに興じていました/国民の一人としてはずかしいです。(H.N)

## この四月から、陽光保育園の

# 園長が替わります

一九七九年から今年度まで、二二年間もの長きにわたって陽光保育園の園長を務めてきた星野紀さんが、この三月で定年退職し、四月からは新たに高田礼子さんが園長に就任します。この場をかりて、「あいさつ」申し上げます。

## 四〇年間、 ありがとうございました

園長 星野 紀

私が保育の仕事を選んだのは、遠いある夏の日の光景が私の心に残ってしまったからです。

一九四九年、敗戦四年目の夏、陽光保育園が大谷口水道タンク門前で青空保育を始めたそのころに、私は板橋に転居、小学校四年生でした。

旧川越街道で荷馬車を見たときにはビックリ。高島平も見渡すかぎりの田園でした。私は板橋区内の小・中学校を卒業、高校生になったの夏休みのある日、杜研のグループに紛れ込んで貧民街の保育園を見学（慰問）しました。軍から払い下げられたというプレハブの建物でした。その窓にはガラス



園長と新園長を囲んで。園児と職員が大集合！

がありませぬ。尋ねると、「盗まれてしまうのです」との説明がありました。子どもたちの昼食はお弁当でした。アルミの弁当箱に外米（細長いポツポツ米）のご飯です。その上に味噌か梅干、切り干し大根、さきイカ等のささやかなお弁当です。一人の男の子が庭でブランコに乗っています。私は気になつて近づき「どうしたの？」と。「おべんとうないの」と男の子、「……」。そして私は、高校を卒業して一年後、ある保育園に就職しましたが、貧しい児童福祉の現実に直面してショックを受け、心身ともにボロボロになりました。痩せて腰も立たなくなり情けないスタートでした。陽光保育園に就職したのは一九六八年、みのべ都政が誕生して陽光保育園が全面改築されたときです。

私はかれこれ四十年の間保育の仕事

をしてこの三月定年退職します。在職中は地域のみなさん、そして保育園関係者のみなさんに並々ならぬお世話になりました。心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

## 「みんなで作る、みんなの保育園」をモットーに

新園長 高田 礼子

私は、四人兄弟の末っ子として生まれました。家計が苦しくなったものだから母が勤めに出ることになり、二歳から保育園に入園しました。お迎えはいつも最後で、玄関口に座って迎えて待つていたことを覚えています。母の帰りが遅いときは、六つ上の兄が迎えに来て、寂しかった記憶もあつたので、自分の子が生まれたら三歳までは自分で育てようと思っていました。

二十一世紀、社会福祉法人が果たす役割は大きいと思います。これからの理事として「陽光会」の経営陣の一人としてかかわっていく所存です。変わらぬご支援をお願い致します。だと思ひ直しました。そして、子どもの発達にそつた保育が必要だということも……。

## 親子でいっしょに遊ぼう

—リズム、歌、砂あそび、散歩、赤ちゃん体操など

2001年度  
年間予定

- 5月9日(水)
- 6月6日(水)
- 7月3日(火)
- 9月7日(金)
- 10月23日(火)
- 11月7日(水)
- 12月10日(月)
- 1月15日(火)
- 2月14日(木)
- 3月6日(水)

子どもたちがすやかに育っていくためには、  
・どんな環境が必要なのでしょう  
・どんな遊びが大切なのでしょうか  
・どんな育て方をしたらよいのでしょうか  
私たちは、  
子どもを育てる中でいろいろ悩んだり考えたりしています。でもなかなか思うように、願うように、いかないものです。保育園の仕事が少しでも地域のみなさんのお役に立てればと、このような催しをしています。お子さんといっしょに遊びに来てください。

<時間> 午前9時～11時  
<対象> 就学前の乳幼児(0～5歳児) / 参加費無料  
<場所> 陽光保育園 ☎3956-1068  
活動しやすい服装で、事前に連絡の上ご参加ください。



## マルセ太郎さんを偲んで

陽光保育園後援会会長 中川 守

それは、突然の暗転でした。一月二日深夜、訃報がはいりました。翌日、対策会議を開き方策がまきました。①チケット代は、全額返金する。②追悼ビデオ上映会を行う。無料(映写機はボランティアの申し出を受けて)。③この企画の主旨を説明してカンパをお願いしよう。五年前、陽光保育園の土地問題を受けて後援会が財政的支援の一つとして立ちあげた企画事業の第一弾が、マルセ太郎スクリーンのない映画館「泥の河」公演でしたが、そのとき、ほとんどのスタッフはマルセさんを知りませんでした。そのとき、ほとんどのスタッフの席でのウソのない語り口で、当日の舞台の衝撃と打ち上げ「救陣師段平」。その打ち上げの席で「タイムライト」の上演が決定しました。マルセさんの言葉で印象に残っているのは、「自分の言葉で話さない。私たちが興業界人が心がけたことは、一身の誠実さ。これが陽光保育園を皆さんに知ってもらいたいと頑張った後援会の「自分の言葉」です。

この難局を迎えたとき、マルセさんを支えてきた人々の誠実さが集まってきました。それは「息子」のビデオ上映会であり、新聞の紹介記事でした。チケットを手売りしながらかけた「私たちの言葉」に対しては沢山の好意が寄せられました。それは感動を共有できた感謝の言葉であり、思惑を大きく上回るカンパです。皆さんの暖かい支援によってマイナスを小さく、次へと進む勇気を持つことができました。本当にありがとうございました。上映会当日は、大雪となってしまいましたが、自らのラストシーンを暗転ではなく一人一人が輝き輝くことにより消えていくホワイトアウトの演出だったのかもかもしれません。マルセ太郎という稀代の芸人が最後に手にしていた台本が、陽光保育園のための「タイムライト」であったことを誇りに思います。心よりご冥福をお祈りします。

## 地域共育講座

子を産み、育てることのすばらしさ

講師 佐々木正美先生

日時 2001年6月2日(出) 19時

会場 陽光保育園ホール(無料)  
「ゆつくり待つてあげるから、心配しなくていいよ」というメッセージを、相手にどう伝えあげるかです。小児療育センターや児童精神科の診察室で、数多くの子どもや親たちの相談を受けてきた佐々木先生に、乳幼児期の育児の大切さを語っていただきます。

【佐々木正美先生略歴】新潟大学医学部医学科卒業後、東大で精神医学、ブリティッシュ・コロンビア大学で児童精神医学を学ぶ。小児療育センターに二〇年間勤務後、現在、川崎医療福祉大学教授也。

## ごあんない

◆お花見

日時 4月8日(日) 11時

場所 城北公園・茂呂遺跡そば

会費 大人500円 子ども200円

\*バーベキュー、焼きそばなどを用意します。で、皿、カップ、箸をご持参ください。

◆陽光保育園後援会二〇〇一年度総会

日時 5月26日(出) 18時30分

場所 陽光保育園ホール

\*陽光保育園卒園児などによる演奏会後、総会を開催。軽食を用意します。

◆夏のバザール

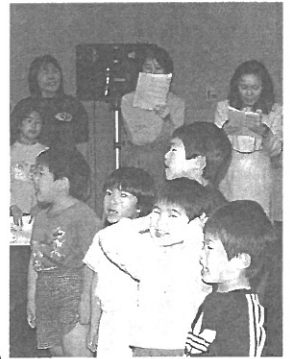
日時 7月1日(日) 10時～14時

場所 陽光保育園

◎ひまわり募金ありがとうございました

99年10月16日、01年2月28日/敬称略・順不同

- 個人 杉坂吉助 津田良輔 上野公介 渡辺一人 田中忠道 菅井政代 三野浩一 宮沢光子 古橋秀信 上原史郎 池田忠義 並河晶子 山田保子 渡辺道也 菅原原代 白土初枝 牧野玲子 三森康正 杉坂博志 星屋範子 石井十郎 小中三郎 増久すみ 飯塚まきみ 一條真紀子 西村 等 増田八代
- 団体等 パザール実行委員会 陽光保育園後援会(マルセ太郎公演企画、その他有志等) 職員有志共同購入 マルホーカリ
- 1 八百竹商店 うたとリズムの会



2月23日、父母の会主催の「歌いまくりの会」で。歌うの大好き!

《園児募集》  
2歳児11人/3歳児12人/5歳児14人  
お申し込みは区役所福祉事務所まで。



# ヒトが人間になるとき

その1

## コミュニケーション



人間の赤ちゃんは、他の動物とくらべると、多くの手をかけ、目をかけ、心をよせて人間らしく育てられます。子どもの脳(重さ)は、だいたい四歳までは急激に発達し、四歳過ぎると二〇歳くらいまではゆっくり発達すると考えられていることから、幼児期の環境はとても大切です。具体的にどのようなことが大切かを何回かに分けてお伝えしていきたいと思えます。今回は第一弾として「コミュニケーション」をテーマにしました。子どもは、感じたことを受け止めてくれる相手が必要です。それは仲間だったり、保育者だったり、親だったり……。気持ちが通じ合う(コミュニケーション)は、ヒトが人間になるために最も大切なことの一つです。

陽光保育園のお母さんたちが我が子と接するなかで「遊びや生活、会話のなかで、共感できたこと、気持ちが通じたことなどを書いてもらいました。」

### 赤ちゃんにも伝わるやさしい声かけ



私は、黙って何かをすることが苦手な性格なので、娘が生まれたときから、夫と二人で娘に話しかけてきました。何かで読んだのですが、保育士が赤ちゃんを抱いて「いいお天気ね」と言ったら、「その子にはまだ通じませんよ」とうして話しかけるんですか?と真顔で尋ねる親がいるそうです。でも、温かい手、笑顔、やさしい声などから、赤ちゃんには何か伝わるのではないのでしょうか。それに比べて赤ちゃんが笑ってくれたら、自分も嬉しくなりますよね。私たちが夫婦は、そんな簡単なことから、赤ちゃんとの会話を始めました。娘も一歳半を過ぎ、二語文も増えてきました。今は「○○の(もの)」という

区別と、「同じ」ものの発見が楽しいようです。片方靴下をはかせてもらおうと、「もう一」と要求し、それが済むと、「お母さんの」と探し回り、「くっつけた。あった」と定に押しつけてきます。はいた瞬間、「おんじ」と声がそろって、親まで嬉しくなります。ご飯のときは、「お父さんの」「お母さんの」「○○(自分の名)」と、それぞれのお椀を指し、「おんじ、カンパーイ」と両手で持ちあげるの、三人で一斉に飲みます。嫌いなものもこの方法だと食べてくれたりします。また、歌、手遊び、お絵描き、お喋り、絵本を見ることなど、一緒にできることが多くなりました。園の行き帰りに歌っています。大変なこともあるけれど、毎日楽しくてたまりません。(4歳児・濃歌の母 二木愛理)

### 家事より大切な子どもたちとのひととき



二人の男の子の子育て中です。忙しくて毎日が、あつという間です。夕方、早く家事を済ませようとがんばっているのもうすく三歳になる次男が、「おかあさん、だっこして」と甘えてきます。しっかりとだっこして一緒にテレビを観たり遊んだりすると安心するようで、しばらくすると一年生の長男と遊びはじめます。でも、そのままだっこをせがみ続けることもよくあります。そうやってくれる「うちよつと待ってね、洗濯ものを取り込んでから……」とか「ご飯の準備、煮こみはじめたら、ゆっくりできるんだだけ……」など話しかけながら、私のひざの

### 何気ないやりとりで成長のあと

最近になって強く感じることは、子育てってこんなに楽しかったか? ということ。散歩するとき等、毎日の生活の中で私は娘の倫とたくさん話をします。話を聞いて倫は、言葉だけでなく、そのときの感情をも表情や動作で一生懸命表現しようとしてくれます。それがよく伝わってくるので、すごく嬉しいし、倫と一緒に過ごす時間をより多く持つようにしています。

あるとき倫が(買ってきた節分の豆に付いていた)鬼のお面をつけて鬼の真似をしながら私に近づいて来ました。そこで私が「あら、鬼さんこんにちは」と言う。鬼になりきって倫も返答します。そして私が「う、倫ちゃん居ないみたい。散歩でも行ったのかな?」と言う。心配になったのかお面をはずし、「りんごに似てるよ、ママ」と訴えます。「あれ、さっきまで鬼さん居たのに、どこ行ったのかな? 倫、知ってる?」と尋ねると、少し戸惑ってから再びお面をつけて「おにさんだぞ」となりきります。小さな鬼にまた倫の居場所を聞くと、今度は自信満々にお面をはずし「りんごだよ。いまね、おにさんね、はいくえん」と。ほんのわずかの間に遊

### バイバイのあいさつが家族の絆



〇月〇日、六時三〇分。「時間だよ。はやく起きなさい」と二人の子を起し、「一日がスタートします。起きてまもなく、私と小三の長女、そして駿丞で朝食タイムです(お父さんは出勤がバラバラなのでいつも別です)。朝食の時間はゆっくりで、今日の予定や昨日の出来事、ときには、駿丞の寝起きのバクハツヘアで大笑い。そのため、出掛ける七時三〇分まで、ほとんど時間がなく、猛スピードで仕度をしなければなりません。マイペースの駿丞は、「はやく、はやく」の連発(しかし、いっしょにはやく)を連発したところで、はやくなるわけでもないのだが……。しばらくすると、「ママは、はやく、はやくばっかり」ときつい一発。反省しながらもニコリ笑って、「ごめん、ごめん」とごまかしてしまつたのです。

しかし、保育園では仕度を終えてからが問題なのです。とんぼ組とはいえ、母との別れは辛いらしく(母が辛いのかも)、どんな天候でも玄関まで見送りにきます。こうして、毎日のバイバイが母の何よりの力の源となっているのです。(3歳児・駿丞の母 高橋みどり)

### 妹が生まれ、大きく成長



なにかと慌ただしい二月にはいつの間もなく、わが家では五歳の娘、咲樹の待望の妹が誕生しました。しかし一月半の早産のため、生まれた病院から設備の整ったNICUのある病院へ、私を残し救急車で運ばれました。しばらく私と次女はもちろん、咲樹は祖母の家、仕事に忙しい主人は自宅、と家族ばらばらになりまし

出産後はじめて面会に来た咲樹は眉間にしわを寄せ、しほんだ私のお腹に手を当てて「生まれたんだあ」とつぶやき、私を見上げてニヤツと笑ってくれました。今回の妊娠を誰より喜び、毎晩私のお腹に「お姉ちゃんだよ」と話しかけ、ポツと動く目と口をまんまるにして、「早くお姉ちゃんに会いたいんだ」とう

び方を理解し、そのとき、ほんの数分間ですが、倫と私の気持ちが通じたこと感じました。何気ない会話のやりとりとってしまえばそれまでですが、私はこの会話の中で大きな感動と、倫の成長がわかりました。これからも、もっともっとたくさん倫と会話していきたいし、会話する時間を大切にしたいと考えています。(1歳児・倫の母 我妻真弓)

### お風呂でコミュニケーション

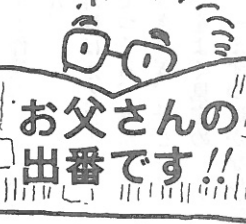
私には三人の子供がいます。普段は家事と育児に追われ、あまり心に余裕のない私です。三人は仲良く遊ぶこともありますが、ケンカをすることも多く、私はイライラし通じることがよくあります。ケンカをするとも三人とも叱るのですが、つい感情的なものが先走り、理由も聞かぬまま怒ってしまうことがしばしば

あるとき沙恵が、「赤ちゃんのとき可愛かった?」と聞くので、「うん」と答えると、「今は、今でも可愛い?」と聞いてきました。沙恵の中で、そういう疑問が私に対してあったのだなと思うとかわいそうになってしまいました。それから、できる限り二人でお風呂に入り、いろいろおしゃべりしながら「コミュニケーション」をとっています。(5歳児・沙恵の母 鈴木久美子)

### できるだけ子どもと過ごす時間を多く

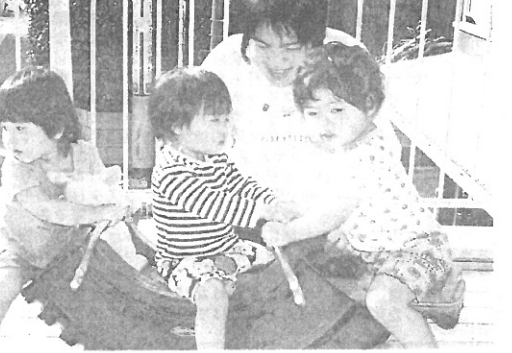
子どもが陽光保育園へ入園し、最も大切な私の日課は、朝九時までに子どもを保育園へ連れて行き、なおかつ九時までに自分の仕事場へ行くことです。簡単なようでとても大変です。私の帰宅が遅いためか、子どもは寝る時間が遅く、朝はなかなか起きません。つい最近まで、出かける前になると保育園へ行きたくないと言っていました。ひどいときには、せっかくなか仕度した服を全部脱ぎ、大人が入り込めない小さなテールの下に立てこもります。無理やり押し込むように車に乗せ、保育園近くの駐車場へ着きます。そこでも時々、行きたくないと言ったまま車の中に立てこもります。保育園に着いても、泣きながらお父さん行かないでと泣いて困らせてくれます。今はだいたいは泣きませんが、まだ時々あります。保育園に連れて行くことのできた。お迎えはお母さんの役目ですが、職場が遠く、車の移動ですでお迎えが遅くなります。そのようなときは私が子どもを迎えにいき、駐車場でお母さんと待ち合わせをして子どもを渡し、また仕事に戻ります。できるだけ子どもと過ごす時間をとるよう心がけますが、十分ではありません。帰宅後時間が間に合えば子どもとお風呂に入ります。

子どもと話をしていると、お母さんには「仕事はちよっぴりして」欲しいようです。またお父さんも同じようなのだそうです。自分たちで面倒をみるという考えがあるにもかかわらず、共働きであるために子どもが起きている毎朝の時間の多くを保育園にあずけている現状に対し、園に対しても子どもに対しても何となく申し訳ない気持ちがあります。そのためか子どもに対しては甘くなり、育児に対する理想と現実との大きな矛盾を日々感じております。私は可能な限り育児に参加していると思っておりますが、子どもが大きくなったとき、保育園時代をどのように思っていたかを聞いてみたい気持ちでいっぱいです。(2歳児クラス・優の父 藤田之彦)



### お父さんの出番です!!

二人の男の子の子育て中です。忙しくて毎日が、あつという間です。夕方、早く家事を済ませようとがんばっているのもうすく三歳になる次男が、「おかあさん、だっこして」と甘えてきます。しっかりとだっこして一緒にテレビを観たり遊んだりすると安心するようで、しばらくすると一年生の長男と遊びはじめます。でも、そのままだっこをせがみ続けることもよくあります。そうやってくれる「うちよつと待ってね、洗濯ものを取り込んでから……」とか「ご飯の準備、煮こみはじめたら、ゆっくりできるんだだけ……」など話しかけながら、私のひざの



タイヤのシーソーで嬉しげな0歳児クラスの子どもたち